

蓬州舊勝錄 十四

慶和縣
史編纂
係亡印

共拾九冊

第四門

品目	年月日	製	昭	和	年	月	日	費	第	三	冊
文書課											

294
ス
1-14



卷四 舊陽

羽栗郡
海部郡

十

四

羽栗郡
海部郡

82408

共十九冊

第九百七十四號



川舊簿録卷十六

河栗郡ノ部

和名類集

葉栗

河沼

大宅

村園

若栗

延喜式神名帳曰祭神十座小

突部

アキ

黒田

クダ

阿遅加

アチカ

宇丈須那

ウヅヌ

多栗

ワカ

(風土記云葉栗郡若栗神宇丈須那社
庵ノ姫誕生産屋地也故此号在リト)

大産

石作

イシ

川橋

カハシ

伴富利治

イワリベ

大宅

オホケ

当那言ノモ方八拾六石三石八斗

九升

当那村報
早稲村別

五

依子原

依子原

依子原

河橋井

若栗井

河橋

河橋



A294
又
1-14

河栗郡通集

如子

開山

○月村地境七反二畝分後前降
勿・藪・寺・所・寺・分・并・隆・又
或・通・アリ

本山

開山

稱隆洛陽妙心寺

瑞林山寶光寺

長光

○月村地境七反二畝分後前降
五畝分後前降

開山

○月村寺初三畝分
年貢地

開山

日蓮宗法華宗妙法蓮華經

妙法蓮華經

日宗在妙法蓮華經

長山寺

此唐書卷五

○ 日村境目畝多
徳前降

あき あきだ

開山

○ 日村寺内
三畝多由有地

本寺阿弥陀

開山

東山法王傳記

日輪寺 平

日宗日記

定力寺 日

○ 上門向店前花住是
境目是所立及十五歩降

海西山流檀林田舎山

日輪山万陀羅寺 大

本寺阿弥陀

観音

阿弥陀坐す
者八寸一

二寺正・安河法彫刻 元徳元年開基

後醍醐天皇花山院齋

開山 兼運上人

寺願 寺三権を有 日村園 伝

文祿元年十一月朔日秀吉或曰日在寺中
無佛寺あり在阿彌陀又を云 年号十一
其長十二年十月八日秀吉九条信光正申建七高
重吉侍あり臨幸多思水三割 寺三十七寺降
元和 教云以外海島系 匠裁史云
佛代...

竹流新 平

善陽新

長壽院

世多院

蓮法院

東林房

似海新

修蓮院

田取新

東陽新

志佛院

正法院

西車新

若光院

境内諸寺

八幡宮

勸修寺

西地ハ河内陀地兼ニク
大珠菩薩尊

竹村ノ中ニ在リ

香宮 大珠

白山寺

多井

山神祠

大山寺 龍輝寺

女殿

客殿

西堂

方丈

院寮

庫裡

大講堂

横門

渡樓

惣門

裏門

けり諸堂坊舎多し

用山天竺上人始ニ西堂寺守寺ニあり光融師に授け淨教を
習学成り一寺を建創家邦を擁護し家多を發揚せんとい
遂に僧と稱る尚州に趣く別居ニ在りて村之種を名付御文
中村管領の地取あるに湯を汲込りに休み終ふる九年後其
人歸り卒ニ帝後院勸修院元徳年中中に位を付境に入て伽藍
を創建し一仏二菩薩の像をありて臨護西家の具場と名
を乞ふ先村之世に在りし日桑に像設を志す後世に傳へ
其名川流ありによりて一箇の藁畧流し其りて標を記す

邑民修んんんに是別陀院の像をそ望み身お繼り亦此
舟に掛り觀落の二大寺 三寺に同作 其阿修 別寺多福寺時
後奈良院勸修院より淨也 白山一流の極北たり

曼陀羅

安別堂

尚山七世空光上人仙化の時竟云

三年六月廿五日の曉祇名北御を令り一振りたに八旬餘りの
を尼一幅の仙像を佩帶し忽ち其を奉りて曰ふ此信
を感へるむ久後其ハ惟淨也の曼陀羅之連と云ぬ
上人跡を慕ひて臨也の社廟に入路り其檀のこに裏
の香邊より果る文珠の像を之明の日東山より十たれ改て
圓福と号し 日輪山万陀羅と成 隆一仏二并の具像
を安んず臨護西家の具場と云 尚山己未代ハ香堂衣
依りて文の身中明也元年 其後になてと院末上一
傳者什相 悉焼失堂衣の夏 暫り後也 後奈良院の
天文十年三月廿五日 勸修寺并代ハ香衣の傳者顯忠上人
相受りて為勸修寺 故に淨也三圓傳者 祇師日寺一流

上門回唐光昭寺村境知
車馬廿三日申申申申申
廿三及十廿年寅也

天台聖因齋院寺

持佛如

遍照山光昭寺

古き茶師如来

崇三百年
聖因山

客殿

長五百廿
携五百廿

開山慈覺大師

向山檀院社

開基小乙中華聖人磨

天滿天社

長三八寸横三寸

付物

一 東照堂神製標御書

一通 一天台智老大師度書

一幅

一 多他香標

佛教大師西物
古四附為里

一 秀老云宿標御書

一通

一 二幅對盃像

十三仏
原盃三幅

一 不動尊

智隆大師尊

一幅

一 涅槃像

在福今
在光福寺

一 天鼓天社

三盃十寸

一回

一 十六夜神畫

一幅

苗山の多葉の尼寺と号する是の尼寺は海部系海部丁七年
乙中葉彩良人磨始て恭制と云り 塩農抄云 葉衆ノ
良人磨ハ天武帝の御宇山乙中葉衆人天押帯日る余の
母りて苗那の女也光昭寺の妙教蓮立人と云り
是ハ秋仙のハ此也同名の人也此ハ柳の人丸衆の人磨と云り
多葉を柳をハ奇蹟の人丸衆ハくの人磨也ハ一葉に
人磨と云 同名の人丸衆ハくの中にも柳の妙人丸衆に云り也
寺記云 秀老云ハ知由苗山の光子也或に志在るて見の
時けち也わりのハ比喜本 三葉と云 稲門在り苗山の住僧ハ
とく 右の吳是 聖云 吾人 老老を占に物在り後由 秀老云
神君にける也此相續也此ハ 御古別也此云 此ハ
て後由は 神に祭られぬハ瑞 在り云 此ハ 同ハ 御別也
逆にこれハ 多井の形在り 御客在り 此ハ 此ハ 此ハ
元康云 此康云 是是 在り 此ハ 此ハ 此ハ
湯山尊の心制札也 此ハ 此ハ 此ハ 此ハ 此ハ

本号の河路院

開山松信坊

始天台宗開法信在河路院上人の所ありて故て改宗開法七
門院のこゝに也。正徳七門院と云ふ今なき在り河路院に寺
更村、石の石ありは河路院と云ふに也。尚井、石あり
け運送ち等也。

○從三位守矢須那天那

門間名 石あり古南の八百

里民松泥と云

舞殿 寺井

遺囊抄に善徳のこゝに
之祖興神余曾之妹余曾多本毗賣命生天押帶日
命降之地の地而有最優利守矢須那天那地の地也
命降之地の地而有最優利守矢須那天那地の地也

○從三位善栗天那

上門間名 大家村和野村是今の
徳村八幡社也。徳村古(和栗村也)

(社内より歩 寺内は直歩) 初之除

寺の古之山石有院 法中
社指別当 通照院

持殿 寺井 祭

古事記曰天押帶日子命ハ将栗良祖之云々天武天皇
小乙中葉栗良人磨者尚那也貫而光の寺也類也當
時在氏人者可知之

宝永三丙戌年十月朔日河田村 松信坊の古寺也
石櫃 石の石あり長九尺斗 横三尺斗の石棺の内には
秘跡焼物の破 鉄釘の腐碎 鉄釘の石ありては
是は古の物にして 無墓誌無ありては 栗良の人磨
の塚也。寺也但云々氏族貴族の古墳なり也。

○從三位川路天那

徳村

○八坂大田神

菅之友の畝分
新之除

田所村

同邑 徳光の石

○從三位大毛天神

大毛村 一作天氣

倭名抄曰華栗郡大毛ト云々按大御食都姫御孫按
姓氏源云大毛首大御孫命孫建新川命裔也ト云々

門前庄門前村八幡宮

○從三位伴富利社天邪

一無
社

門前村八幡宮祭礼八月十五日吉尚村并西田村馬の塔寺

東門前寺多事寺

平水端家寺 平

八幡宮
在名重
西田村

本寺河内院如來

用山

前傳西瀬社名門院の内也

八幡宮

在名重
西田村

寺云府下森宮性院寺

社傳別傳致生寺

相殿

有井

社地ニ有ニ畝苗あり

揚社 天邪堂

大日堂

祭

天台神田島院寺

寺田園

八幡宮
八五畝三古隆地

八劍宮

相殿
有井

白山

別傳八劍山神文寺

客殿

用山

八幡宮
同村社地
三畝多古隆

八幡宮

標尾田創光寺

社傳

源流

○加茂大明神

社人

玉井要人金平重房

玉井井里

日影 西ノ井村
玉井村北ノ道

羽殿

多井

舊傳神

「外立乃一村をぐる葉の葉にたぐ白雲のあはれ井の里

京傳ニ下る年六日場出ス井内ノ路

天平三年 未二月五日

上ノ文字より後元年二年
京傳ニ下る年六日場出ス井内ノ路

当邑の産神神や祭神別如後皇大神宮の御名を以て
大御神と云雷除の御札也社内より玉の井と号に古井あり
舊井流あり井内を空飛ぶ在く遙に玉の井と云あり
け井の事と里民語ル

振：遙の玉の井は神代の子孫を以ての事と云遠り玉の
愛の事と云ては玉の井一唱歌ありと云
亦獲田古妻の心より玉の井と云地名あり是も神宮玉の井
正正と云人の舊傳也と云此の事彼地と云て是考

杉本流字法万福寺末

慈雲山万福寺

○小岡村境内香山七町
宮内正一歩堂納ミラ
山古道と地々

古の事

○観音堂

岡山

○愚岩明神社

愚岩村

在大石 号祭愚岩神 冥一

稲殿 表

△當郡未改寺院修費兩流福抄初

○湯村

△修每體地老多志

平修

瑞雲山東林寺 ○ 八剎河村

臨事世在 大徳寺

堂守

法員庵

平

坂内八節十之歩

防落隆

日三助分氣地内

除

○山内村

右内山

妙法山 延喜寺

○ 和刺河村

右内山

如來寺

日

同平及分

前隆

不詳

○山内村

修每由山老多志

平

仙函山 高徳寺

○ 大丸村

臨石山 徳安寺

知記 齋

日

日里内分

年貞

日内山

除

○山内村

右内山

社傳 睡虎庵

○ 小丸村

臨事世在 老多志

法燦 定永寺

日

氏非

日手及五畝分

除

日八畝五分

飯

○田村

信長寺
日八畝分
年

○大日如来

不知
地蔵堂
大日如来寺
年

○大毛村

信長寺
日八畝分
年

○更屋敷村

信長寺
日五畝分
年

○小毘沙門

天保社
神明
年

大明神社
年

△信長寺
年

○東浦村

信長寺
日七畝分
年

○口村

信長寺
日七畝分
年

○大毛村

信長寺
日八畝二分
年

○高田村

信長寺
日三畝五分
年

○玉井村

信長寺
日六畝分
年

○金致寺

○田村

信長寺
日六畝分
年

○西井村

信長寺
日二畝分
年

○正明寺

○加刺村

信長寺
日七畝分
年

○黒坂村

信長寺
日五畝分
年

○岩手寺

○小方村

信長寺
日三畝二分
年

○河田村

信長寺
日八畝分
年

○礼徳寺

○北方村

信長寺
日八畝七分
年

○岡村

信長寺
日八畝七分
年

○畑更寺

○小園村

信長寺
日八畝七分
年

○徳徳寺

舊洲舊撰編卷十六 澤

於葦河通集

△海西郡之郡

(海西郡割る今乃海東海西
西郡所傳如是郡條)

和名類聚並和名帳、上條如海東郡、並記、爰略不

為郡、高田百三子九拾六石、或廿六石七合

外、寺社、院、寺、百七石、或廿六石、或廿七合、外

○同郡邑數凡七拾七村、並新田

西條 東條 西條 東條 西條 東條 西條 東條
ウリヤシキ ウリヤシキ ウリヤシキ ウリヤシキ ウリヤシキ ウリヤシキ ウリヤシキ ウリヤシキ

草平 又八新田 較地 馬地 下押蘇 龜地
ウリヤシキ ウリヤシキ ウリヤシキ ウリヤシキ ウリヤシキ ウリヤシキ

上押蘇 竹田 東氣 西氣 子室 名地
ウリヤシキ ウリヤシキ ウリヤシキ ウリヤシキ ウリヤシキ ウリヤシキ

一 元平七年乙卯三月廿五日 尚那子尾邊 亦仍孫

是八石村田徳永傳中世久也

一 在屋胸^後乙卯三月廿五日 同前也

此田亦有立石付細町下口在出陸地尾邊傳中

一 市細乙卯三月廿五日 同前也

是八石地村田田西拉除

一 同乙卯三月廿五日 同前也

是八石地村田田西拉除

一 同乙卯三月廿五日 同前也

是八石地村田田西拉除

一 同乙卯三月廿五日 同前也

是八石地村田田西拉除

一 同乙卯三月廿五日 同前也

是八石地村田田西拉除

一 同乙卯三月廿五日 同前也

是八石地村田田西拉除

一 同乙卯三月廿五日 同前也

是八石地村田田西拉除

一 同乙卯三月廿五日 同前也

是八石地村田田西拉除

一 同乙卯三月廿五日 同前也

是八石地村田田西拉除

一 同乙卯三月廿五日 同前也

是八石地村田田西拉除

一 同乙卯三月廿五日 同前也

是八石地村田田西拉除

一 同乙卯三月廿五日 同前也

一 同乙卯三月廿五日 同前也

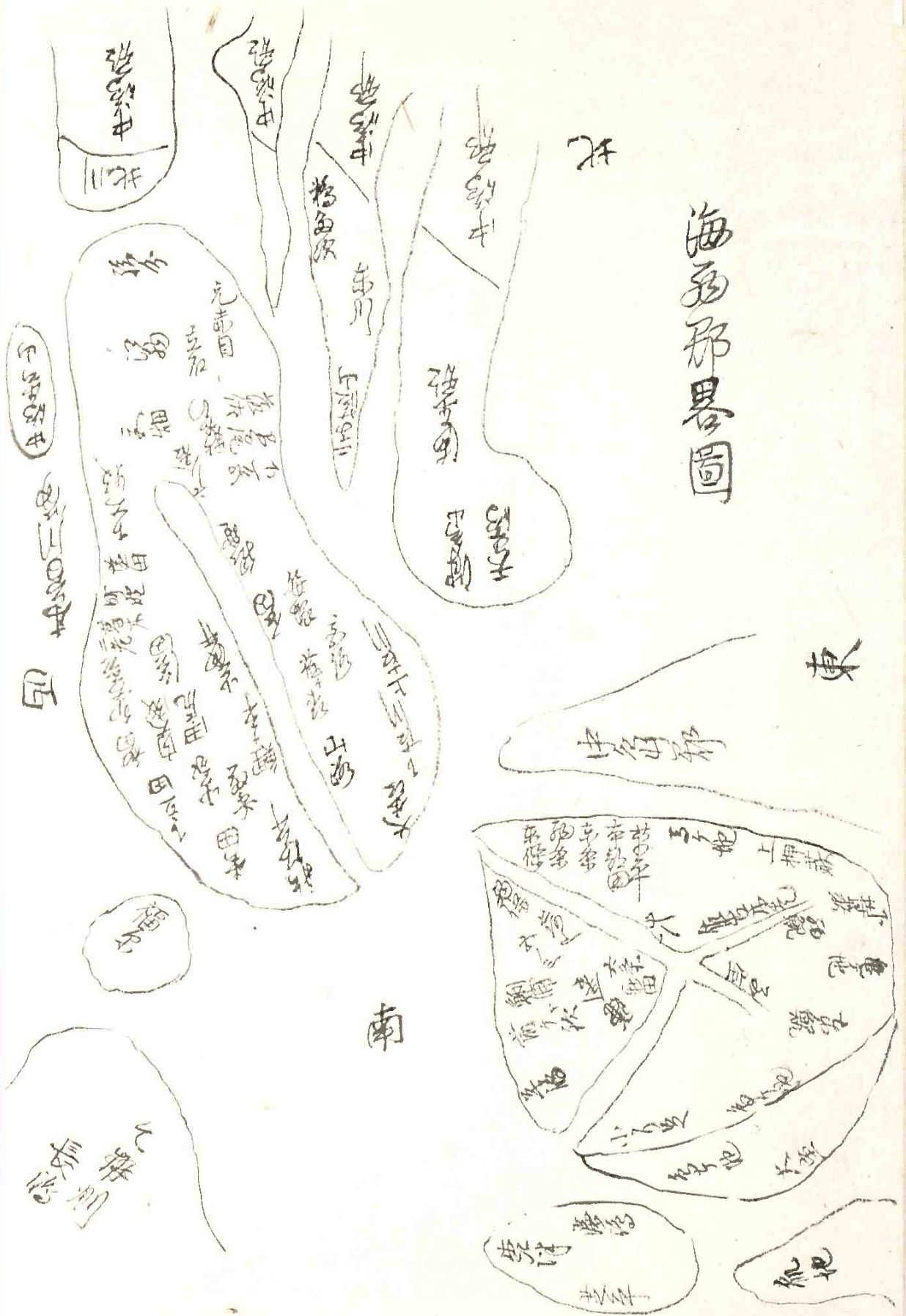
是八石地村田田西拉除

是八石地村田田西拉除

是八石地村田田西拉除

是八石地村田田西拉除

海高郡界圖



○当郡村々出字方角并畷田

○東保村

村の北ノ方廿二町

車新田

○子尾村

村の南ノ方二町二丁

山内原村

○石田村

日十六町

一色村

日十七町

山内原

○川北村

日十五町

山平村

○鶴友酒村

日十三町

みくら村

○御保村

日十四町

前原村

村の南ノ方三町二十丁

村の北ノ方三町二十丁

村の南ノ方三町二十丁

村の南ノ方三町二十丁

村の南ノ方三町二十丁

村の南ノ方三町二十丁

白砂吹く予等の地し安福山の風箏もや知り都の如き
所あり一遠く東の村里の向くと見ゆる塩田村の
福ももせしきり一東秋の初めはと巡りし茶
庵りきき立たる院の一節にけ場に霞る雪の残り
正し

藤曹明三郎正眼寺

新蔵也

赤目村に在る燒田
五畝分あり

國方山一山寺

塔石
赤鬚庵

中身開祖云山和尚

寺願五十二石 并 田部町細三所八反持寺氏所附

当山の明和年中中筆關持井掃部以財米別海に由り二郡
形他の町建創別号万福寺とて同或は身廢亦た別号あり

五代持拍時安信号廢地石福寺と再身而号一心寺
西眼寺十六世天山和尚と傳り中身持開祖廢地を在
そ外田島三町持家附あり也澄久多き因縁あり
を記す

一山寺知り附あり

一寺七石 赤目寺在浦 一寺拾石 上祖文は村中の
燒古川也

一寺三石 一寺廿六石 上祖文は村中の
燒古川也

一寺三石 一寺七石 上祖村古川也

左念寺五十二石物殿八石以上十七石苑島寺
代官古寺に可成納者也田中持

○後分村境内南十二歩
は坪野山古寺南山
十八百歩直地敷其畝口黄隆地

長全寺

長全寺

寺名 阿尾院

開基 淨了坊

檀越 浄了坊

竹物 親曾 至一人 益徳一庵 蓮少一人 古字名號 日 教中一人 古像

淨曹桂村天柱山依歸寺志

池花山彌勒寺

○(寺)地村出田西ノ指
院下ノ田ノ事

寺名 彌勒寺

元禄三乙酉年三月廿日遷化

開山 卜外和尚

寺名 開山和尚 遷化 寺の田開基の灵牌を委く
ありと云

開基 瑞光院 祥山善祐居士
超宗院 直翁玄入居士

氏中

八幡文

拜殿

西條村

地蔵堂

社名

柳当社境内の徳信 延命地蔵大

井ハ人五五十五世帝 桓武天皇御宇 修教大原 有本を以て
彫刻し 靈驗を双の寺像に付 底に安重の子を以て
將軍 菅経郷の幕下に 藤氏大徳 逐回 修教 佈を以て
見申の事 土に山を以て 知して 民倉 あり 新と 連て 天台
宗門の 寺院 十二坊 景繁 昌一 あり 村に 藤氏 邪徳と 師
傳ハ 八幡文を 御傳し 西に 寺を 安重を 伐りて 坊

元禄十丁丑年冬容を彩飾一別當に役て安重とい
可徳之冬己年秋中三十七日開扉は是れ御修り當
宇破壊ありあり修造の功調て安永七箇の冬
造受成結し冬秋己年二十日の開扉より如里結縁起書
長家車とく之書と要久と愛之紀ス

○^或從三位神社天神

梅尾神社

社 百五ノ店
桔 山内井村
釋殿 句表

○^子三村古鏡
三畝十歩寺首也

本寺の西池

開山

東門院殿村惣寺

今樹寺

當寺の堂向氏之先祖建立
の里石氏當寺前の人あり

○上田村境内助五畝
其書除他也

本寺の西池

開山

東門院六寺

常照寺

當寺の厨下燃焼町左邊寺
二山同寺之右府の院ノ院ス

○^子本寺の西池
三畝十八歩自貢地

本寺

開山

深雲寺

後曹三郎の眼寺

江雲山持音寺

○^子本寺の西池
三畝十歩寺首也

本寺

開山

○^{子半}山後村寺内
長安十九步自真地

本寺

宿務寺

立田山大忍寺

長老

開山

宿務寺與宿務寺

雲隣寺

○^子宿務村寺内
長安十九步自真地

本寺

開山

宿務寺與村一寺寺

圓通寺

○^子東川村院内
長安十九步自真地

本寺

開山

○^{武内}從三位守志天神

神殿 名所 祭

宿務寺 宿務寺

氏部省圖帳曰國津守多志明神神田三十八東有餘
文武元年壬申十二月建宮殿今未及實治^{堀河院}
二年戊卯^{卯當}加再渡神境十一圍^{云云}

按參河國寶飯野菟足神社同神

志與利

國造本紀曰務國

今三河也

造生江原社^{カウラキ}葛城襲

今大内宿所地^{寶飯野也}及八分^{右社也}在社也

白山^{長安地}

從二位赤星名祚

川村^{宿務也}

稱星宮

神殿

名所

氏社
○八咫宮

曹古村

邑加

相殿

多井

祭八月廿日新清立御り

八咫宮の文とて ^{ナニダ} 龍蛇神を奉りてや雷降るのまれと
出ろ里邊に山田の大蛇を奉りてと云 按 龍吉は出の海邊
新田開墾の時 龍蛇を以て井敷りしに相殿なり

○^氏白熊大御神
神の宮

下大牧村

田り

舞殿

多井

祭八月廿日新清立御り

○八咫宮

相殿

多井

境内

○神宮の山の神社

赤岡村

知花院

古云山伏を龍福寺に奉りて

願之横井之祭の社取高耐ありて 各祀入りてや新清立御り
夜誠造本音川筋ありて百八蛇龍灯籠と稱しやちやい
神宮にめをり修る在のちやうりん出を燈しやうにそて
川下流にあり回流にせられりやい 奥にありて

○下大牧村龍蛇
寺又一臥正宮の地

東門院の寺に在り

無山龍明光寺

中宮 河津院

作あり

開山

安常坊

近代時代あり

建創の時代より新清立御り 甚く崇められしに云と云て詳なり
西の鹿子馬のたんに掃しなす 幾場とて武功を修り 康政と
大八車に矣二車と稱し 也を修る由家に臥依し 高ちを建立し
そを修る由に南の方二三所も修にありしに 此を修るに舊記
亦修るに高修に修る 之の他 易地 苗と修る 其の九字十字の

○ 播磨河津代官方の役所
天明三年年々新・出来

代官

真瑞後

○ 子清の墓

○ 天王山祠

○ 天王 五畝分

○ 天王 五畝分 天王 七畝分

○ 八幡 天王 (西清) 天王 七畝分 山部村 大徳寺

○ 八幡

○ 神保

大徳村

西畑村

下古川村

大徳村

山部村

元赤岡村

原内草平村

播磨河津代官の役所
天明三年年々新・出来

○ 星の宮 田部反四畝十歩

○ 天王 五畝分 神保 五畝分

東岡村

上高村

△ 尚那 寺 海古志宗 為 高岡三流部

○ 西保村 五畝分 長樂寺 平

○ 西保村 地部反三畝七歩 自貢

○ 西保村 日部反十歩 曆所寺 日

○ 西保村 西府下 四畝十歩 法光寺 日

○ 西保村 西府下 四畝十歩 法光寺 日

○ 鯛浦村

○ 鯛浦村 西府下 四畝十歩 当念寺 日

○ 西保村 五畝分 高友寺 平

○ 西保村 日部反七歩 高友寺 平

○ 西保村 日部反十歩 高友寺 日

○ 西保村 西府下 四畝十歩 高友寺 日

○ 西保村 西府下 四畝十歩 高友寺 日

○ 石田村 日部反十歩 高友寺 日

玉泉寺

○本館田村

東側 聖徳寺 平
日不知

聖光寺

○高上村

東側 聖徳寺 平
日不知

光道寺

○西條村

東側
日不知

栴檀寺

○文徳村

東側 聖徳寺 平
日不知

唯真寺

○西條村

東側
日不知

曼心寺

○子尾村

東側 聖徳寺 平
日不知

淨徳寺

○西條村

東側 聖徳寺 平
日不知

成満寺

○馬地

東側 聖徳寺 平
日不知

富泉寺

○戸倉村

東側
日不知

陽南寺

○葎ヶ森村

東側
日不知

道泉寺

○高下村

東側
日不知

和泉寺

○山形村

東側
日不知

随順寺

○高下村

東側
日不知

当随寺

○上立田村

東側
日不知

当光坊

○新保村

東側
日不知

教寺

○上立田村

東側
日不知

良随寺

○栗田村

東側
日不知

西福寺

○栗田村

東側
日不知

玄徳坊

○高下村

東側
日不知

所随寺

○新田村

東側
日不知

宝珠寺

○山崎村

日方及多隆池あり

○徳寺

○大蔵村

東山寺

○安泉寺

○後江村

東山別と尾崎あり
田畝十歩

○明教寺

○稻多村

東山寺

○了俊寺

○二老村

東山下聖徳寺あり
田七畝分

○了悟坊

○葛本村

東山寺

○同深寺

○元赤岡村

東山麓海あり
弟塚

○光養寺

○葛本村

高田庄一畝田あり

○唯願寺

○岩倉村

東山麓海あり
田三畝分

○西光寺

○塔田村

東山寺

○引接寺

○高畑村

東山下聖徳寺あり
田三畝分

○長竹寺

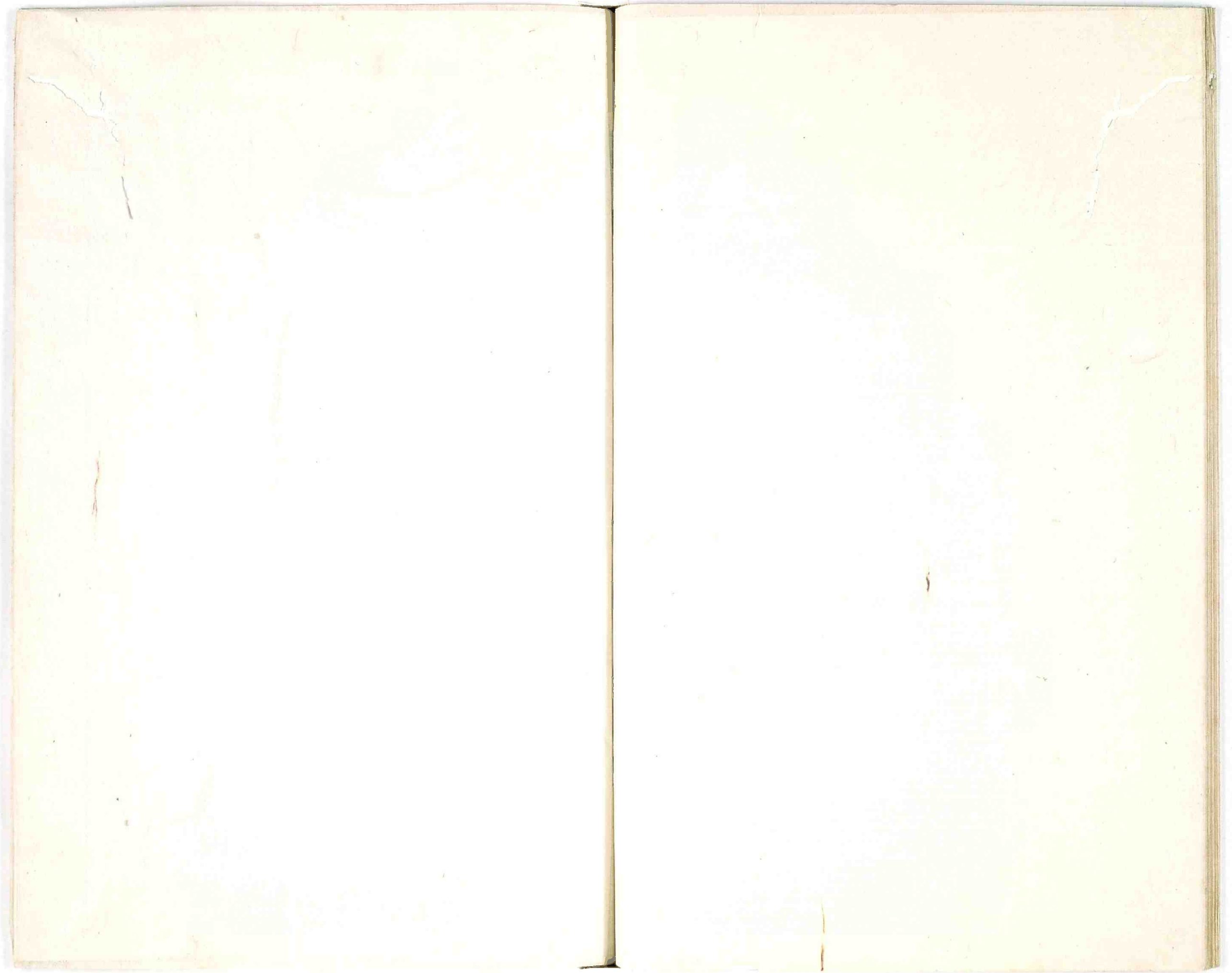
○江南村

東山寺

○西林寺

○市野田村内は古大地震とて跡なき他在り里流は安
平城院といふ之を寺院のなりて形もよくやむ時代
ホのまゝの安ん知遺言万改開年

○尾張國海西郡 小幡ノ庄
天正祐古祭あり揚札ノ文小幡ノ庄あり
振舞多ハ門圓ノ庄之古ノ田号見此ニ流年ノ小幡ノ庄と
云りあり 城祭あり 揚字 過半 見山 此ノ庄ノ記あり



○長瀧

（七海州地）
（古尾州）

從前、海路一江の所也、中興

豊臣家の時代の海路の用ふる所（即ち此所）所屬尾張八丈ハ
云、信ハ此家の織物、今中興信織物州と稱して今の
信州信ハ此所（此所）也

庭訓往来、尾張八丈

藤原明衡ノ新猿蓑記謂

美濃八丈

於尾張記

（粗）

亦八丈本

亦尾州也

前代ハ至今、海西郡に号ハ八丈氏者、同く在る後、信織

移、在、美濃、云、介、粗、倭、俗、呼、起、米、下、清、人、可、謂、歡、法

圖の其製、空、考、帝、京、亦、物、畧、今、獲、田、の、市、賣

之、指、之、宮、起、米、亦、海、島、所、製、の、起、米、味、持、焉

他、則、自、中、世、我、尾、州、製、之、故、に、明、衡、載、之、也

塩、産、云

三、日

七、月、朔、日、青、島、美、濃、を、始、公、更、根、據、す

兄、作、見、目、令、に、駕、倉、花、と、云、（此、青、島、の、其、之、民間、に、其、物

近江國よりハ馬のふる起しと云ふに掛り振るは馬助
の降は露子を脱もる及馬一り九かの馬に氣を同し
まらり周被れ後もお馬化の番とありし故に唐土の
書にのれバ古川にたぬ振る我尾の海に於て郡よは
古川の名傳れ佐れば尾振る大に感し中にや古川と
元々海郡の國なりしハ大に感し而も古川とあり申
比給儀の事なり候り候と申す事

愛 知 県



1103269498